

## 学校長式辞

昨晩から降り続いていた雨が上がり、まさに天が卒業生の門出を祝ってくれているかのようです。このような良き日に、来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、木更津総合高等学校第21回卒業証書授与式を挙げていただけますことを、心より感謝申し上げます。

そして卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日の卒業式が、皆さんが制服を着て本校に登校する最後の日です。3年間を振り返って、木更津総合高校での生活はどうでしたか？コロナ禍が始まり、思い残すところがたくさんあったであろう中学校を卒業し、期待に胸を膨らませて入学した高校生活も、最初の1年間は、まだまだたくさんの制約がありました。クラブ活動は何とか公式の大会等が復活したものの、多くのクラブが、コロナ感染者が出るたびに長期間の停止を余儀なくされました。体育祭も文化祭も縮小バージョンでの実施が精一杯でした。全国すべての高校生が同じような境遇とはいえ、人生で1回しかない高校生活がこのような状況になってしまった皆さんに対して、当たり前ものを学校が提供してあげられないことを申し訳なく思いました。しかしながらそのような中でも、皆さんは本当によく頑張ってくれたと思います。色々な制限がある中でも、その中でできる限りの工夫と努力をし、勉強でも行事でもクラブでも全力で取り組んでくれました。そして、皆さんが2年生に進級したタイミングで、状況は劇的に変わりました。そこからの2年間は、臨時休校などで学校全体が閉じたことは1度もなく、クラブの大会などが中止になったことも1度もなく、予定されていた学校行事は全て実施することができました。体育祭と文化祭という2大行事は、本来の形である2日間フルバージョンで実施され、特に今年度の文化祭はお客様も招待し、素晴らしい盛り上がりを見せました。何よりも2年生の時に修学旅行が実施できたことは、本当に良かった。中学校3年生の時には、誰もが修学旅行の中止で残念な思いをしたと思いますが、その分、高校での4泊5日の修学旅行は一生の思い出となったことと思います。様々な地域から集まった個性豊かな仲間達との寝食を共にした交流という、木更津総合高校の醍醐味を味わってもらえて、私も心の底から嬉しく思いました。

とは言うものの、皆さんの高校生活の大半で、コロナが大きな障害となったことは、まぎれもない事実です。しかしこれをいつまでも苦い思い出とするのか、今後の成長の大きな契機にするのかは、皆さんの今後の生き方次第です。もはや、これからの社会は何が起こるのか想像もできません。コロナのように、世界中を同時期に襲った感染症などを、現実に予想していた人がいるのでしょうか？ロシアとウクライナの戦争も終着点が見えてきません。加えて中国の動きも相まって、数年後の国際情勢がどのようになっているのか、そして、その中で日本の立ち位置はどのようになっているのか想像が付きません。そしてもっと皆さんにとって身近なところでは、少子高齢化が急速に進む日本の将来はどうなってしまうのでしょうか？皆さんが社会の一線で活躍するであろう20年後の日本は、どのような社会になっているのでしょうか？世界も、そして日本社会も変わりました。そしてまだまだ劇的に変わっていきます。そこで、この、先の見えない未来の中で皆さんに必要とされる力を2つ示します。1つ目は、目の前で起ったことをしっかり受け止め、それに対して自分が何をできるのか考えて行動に移すことができる力です。もう1つ重要なものは、目の前の変化を受け止め、それを乗り越えていくために自分自身が変化していく力です。「最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き残るのでもない、唯一生き残るものは変化できるものである」。

しかしながら、変化していく世の中であっても社会生活を送る上で、最も普遍的に必要なもの、それは良い人間性です。人は一人では生きられません。人と人が支え合って生きていく中で、良い人間性を持った人こそ、社会で愛され必要とされます。「1に人柄、2に体力、3に知識」。本校創立者である真板益夫先生の言葉です。どんなに知識や技術を持っていたとしても、どんなに強靱な体力を持っていたとしても、良い人間性が伴わなければそれを社会で活かすことはできません。皆さんは千葉県一と言っても過言ではない、個性豊かで様々な地域から集まったたくさんの仲間たちと、切磋琢磨しながら3年間を過ごしてきました。色々な考え方や価値観を持った仲間たちと過ごすことで、それをお互いに受け入れながら一つのものを作り上げていく人間力を身に付けたはずです。皆さんが3年間で培った人間力と真心を如何なく発揮し、社会で愛され必要とされる、そして新時代を切り開いていく人財となることを期待しています。

もちろん、これからの皆さんの人生は、全てが楽しく平坦な道ではないでしょう。高校生という身分に守られた学校での生活とは比較にならないほど、これから皆さんが通る道には多くの困難が待ち受けていると思います。しかし、我々木更津総合高校の教職員一同、皆さんが卒業した後も、一生皆さんを応援しています。嬉しいことがあった時、辛いことがあった時、いつでも母校を訪れてください。

さてお別れの時間が迫ってきました。終わりにあたり保護者の方々、ご来賓の方々には、これまでの本校に対するご理解ご協力にあらためて感謝申し上げます。そして卒業生の皆さん。くれぐれも健康に留意し、自らの夢に向かって精進し、その努力が花を咲かせ実を結ぶことを心から念願して、私の式辞といたします。

2024年3月1日 木更津総合高等学校 校長 真板竜太郎